

第1章 調査の概要

1 調査の目的

令和5年度に策定する「第9期豊田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和6年度～令和8年度）」（以下「第9期計画」といいます。）に、市民及び関係機関の意見を反映させるとともに、高齢者を取り巻く状況について基礎資料を得るため、各種調査を行いました。

2 調査方針

□ 調査項目設定の方針

第8期豊田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の重点施策の進捗及び前回調査からの経年変化を確認するために、前回の調査項目を基本とした内容にしました。第9期計画において、新たに検討が必要と思われる視点については、項目を追加しました。

□ 調査の設問数

回答者の方の負担に配慮し、豊田市が実施した各種調査結果の活用等により設問を厳選し、設問数をなるべく少なく設定しました。

3 調査方法

高齢者や認定者など当事者、ケアマネジャーや事業者など関係機関にアンケート調査を行うとともに、統計データ・既存の市のアンケート調査などの活用を図りました。

主な調査内容は次の通りです。

○アンケート調査

・調査対象（R4.9.1現在）

高齢者	65歳以上（要支援等・要介護と認定されていない）の人
要支援・事業対象者	要支援と認定されている人、及び、介護予防・生活支援サービス事業対象者
要介護認定者	要介護と認定されている人
事業者	市内の介護サービス事業者（法人単位）
ケアマネジャー	市内の居宅介護支援事業所のケアマネジャー （73事業所に2枚配布）

* 高齢者、要支援・事業対象者、要介護認定者は、対象者から無作為抽出

* 事業者は全法人、ケアマネジャーは全居宅介護支援事業所に配布

・調査方法等

各アンケート共通	郵送配布・郵送回収（事業者及びケアマネジャー調査は、一部WEB 回答あり） 調査基準日 令和4年9月1日 令和4年9～10月に実施
----------	---

・主な設問

高齢者	属性、日常生活、社会参加、生きがいや楽しみ、住まいや医療・看護、高齢者福祉
要支援・事業対象者	属性、日常生活、社会参加、生きがいや楽しみ、高齢者福祉
要介護認定者	属性、施設での生活、在宅での生活、主な介護者、高齢者福祉
事業者	法人について、運営、介護職員の人材、業務の効率化・生産性向上、地域での活動、高齢者福祉
ケアマネジャー	法人・回答者の属性、業務やケアプラン、多職種連携・研修、高齢者福祉、情報通信技術の活用

・回収結果

	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
高齢者	3,000	2,259	75.3%	2,259	75.3%
要支援・事業対象者	2,000	1,416	70.8%	1,362	68.1%
要介護認定者	2,000	1,256	62.8%	1,242	62.1%
事業者	171	133	77.8%	132	77.2%
ケアマネジャー	75 事業所	112	-	112	-

* Webを通じた回答は、事業者 44、ケアマネジャー16

4 集計・分析にあたって

- 回答の比率は、その設問に該当する回答者数を基数（n）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- 回答率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても、比率の合計が100%にならない場合があります。
- 本報告書の表、グラフ等の見出しおよび文書中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合があります。
- 各クロス集計には、年齢、性別、居住地域、世帯状況等について無回答があります。
- 居住地域は、下図の通り8つの日常生活圏域ごとに集計しています。

・豊田市の日常生活圏域



5 調査結果のまとめ<概要版より>

当概要版には、第8期豊田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画で設定した「総合指標（当市の高齢者福祉全般の取組状況をはかるために設定）」や「成果指標（第8期計画の重点施策の取組状況をはかるために設定）」に関連する調査結果を中心に掲載しています。

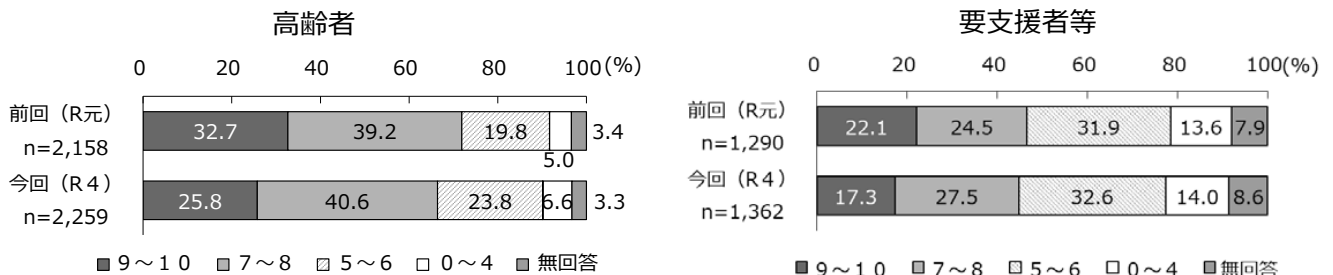
1. 総合指標の状況 ① 幸せ感

総合指標①

指標	計画策定時	目指す方向	調査結果	
幸せ感が高い高齢者（7点以上）の割合	71.9% (2019年度)	↗	66.4%	↘
幸せ感が高い要支援者・事業対象者（7点以上）の割合	46.6% (2019年度)	↗	44.8%	→

幸せ感が高い高齢者は減少、要支援者は前回と同傾向

●● 幸せ感（「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点） ●●



※ グラフの「高齢者」「要支援者等」等は1ページの「調査対象」のことを指します。（以降のページも同様）

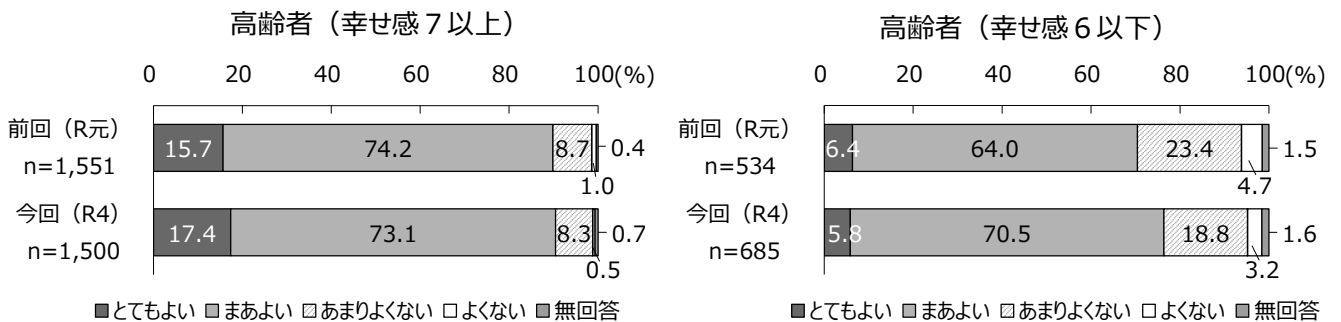
1. 総合指標の状況 ① 幸せ感

前回の豊田市高齢者等実態調査（2019年度）の結果から、幸せ感には「健康」「外出」「知人等との会話」「会・グループ活動」が影響していることが判明した。

そこで、この4要素を幸せ感が7以上と6以下に分けて前回と今回の調査結果を比較する。

**前回と比較して、全体的に健康状態は大きく変化していない。
 幸せ感が高い人の方が健康状態は良くなる傾向は変わらず、前回と今回を比較すると、幸せ感の違いによる健康状態の傾向が変わっていない。**

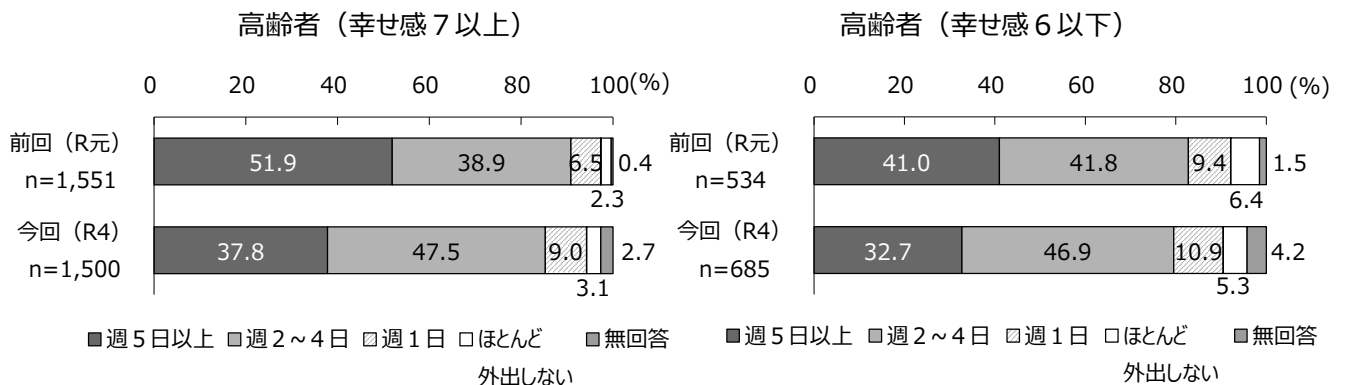
●● 健康状態と幸せ感（「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点） ●●



1. 総合指標の状況 ① 幸せ感

**前回と比較して、全体的に外出の頻度は少なくなっている。
 幸せ感が高い人の方が外出頻度が高くなる傾向は変わらないが、前回と今回を比較すると、幸せ感の違いによる外出頻度の差が小さくなっている。**

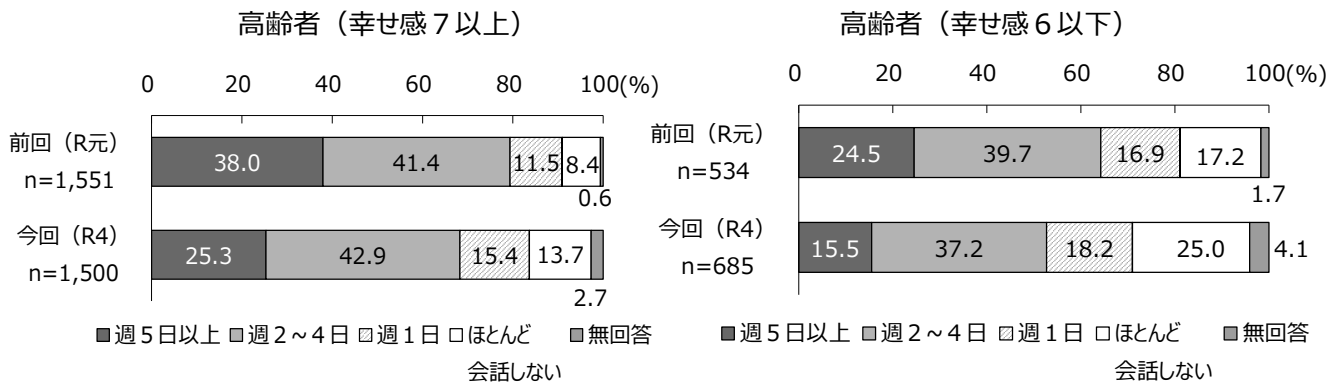
●● 外出の頻度と幸せ感（「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点） ●●



1. 総合指標の状況 ① 幸せ感

前回と比較して、全体的に会話の頻度は少なくなっている。
 幸せ感が高い人の方が会話の頻度が高くなる傾向は変わらず、前回と今回を比較すると、幸せ感の違いによる会話の頻度の傾向が変わっていない。

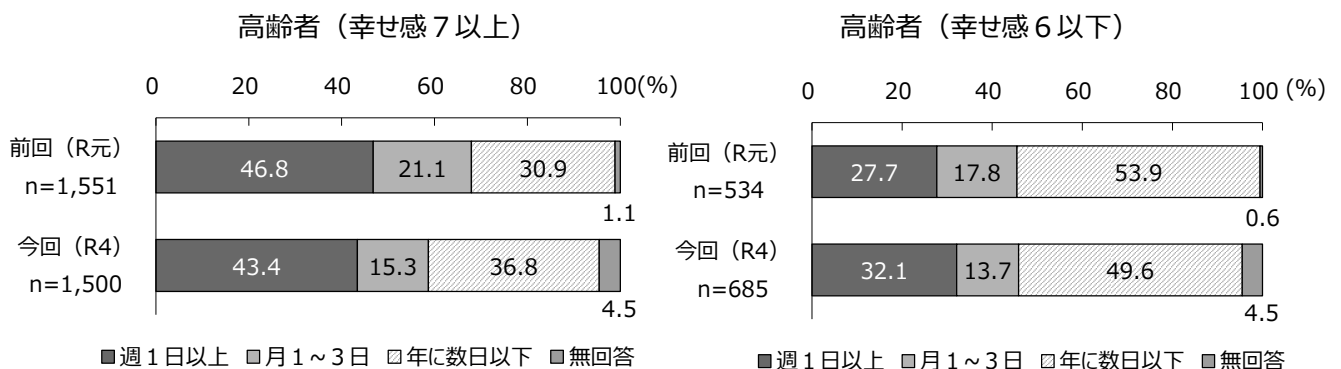
●● 知人・友人等との会話と幸せ感（「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点） ●●



1. 総合指標の状況 ① 幸せ感

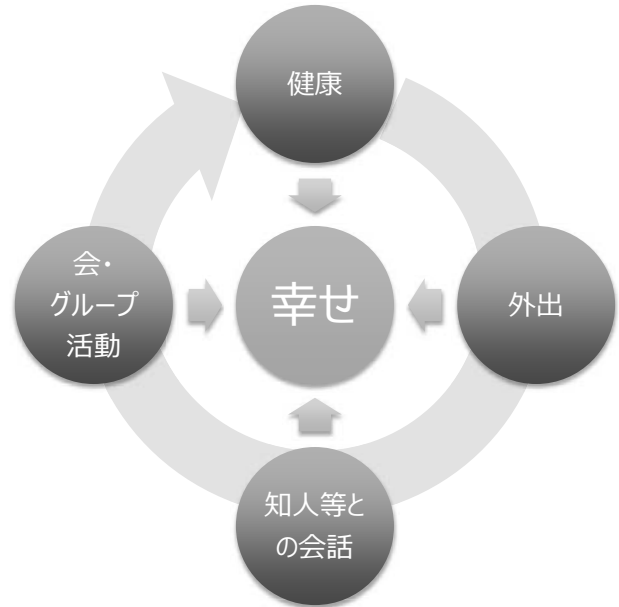
前回と比較して、全体的に社会参加の頻度は、少なくなっている。
 幸せ感が高い人の方が社会参加の頻度が高いが、前回と今回では、幸せ感の違いによる社会参加の頻度の差が小さくなっている。

●● 会・グループ活動（社会参加）の頻度と幸せ感（「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点） ●●



1. 総合指標の状況 ① 幸せ感

前回と比較すると「外出」及び外出に関係が深いと思われる「知人等との会話」「会・グループ活動」において、幸せ感の違いによる差異が若干縮小しているが、前回同様に幸せ感には4つの要素が重要である傾向がみられた。



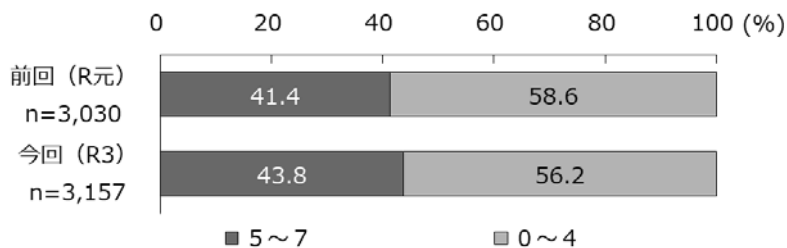
1. 総合指標の状況 ② 高齢者が安心して暮らすことのできるまち

総合指標②

指標	計画策定時	目指す方向	調査結果	
高齢者が安心して暮らすことのできるまちとして満足している市民の割合	41.4% (2019年度)	➔	43.8%	➔

2021年度市民意識調査の結果

高齢者が安心して暮らすことのできるまちとしての満足度がやや増加

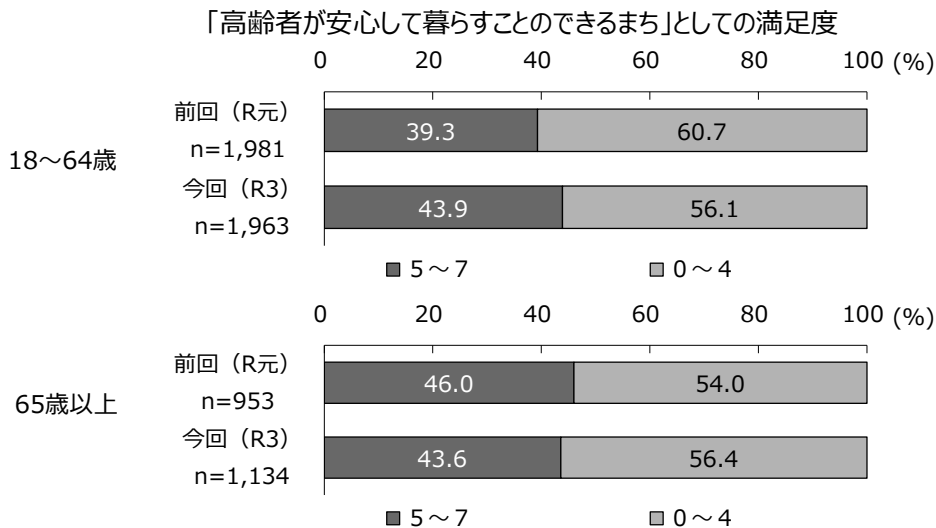


「第22回市民意識調査結果（令和元年度）」
「第23回市民意識調査結果（令和3年度）」（豊田市）を加工して作成

1. 総合指標の状況 ②高齢者が安心して暮らすことのできるまち

現役世代（18～64歳）と高齢者（65歳以上）の満足度を比較すると、高齢者が前回とほぼ変わらないのに対して、現役世代が前回から上昇し、世代間で差がなくなっている。

●● 世代別満足度（満足度が「高い」を7、「低い」を1） ●●

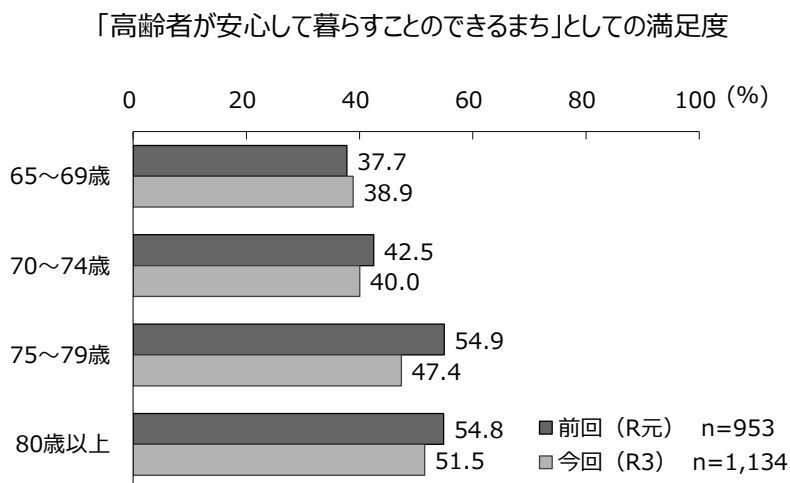


「第22回市民意識調査結果（令和元年度）」「第23回市民意識調査結果（令和3年度）」（豊田市）を加工して作成

1. 総合指標の状況 ②高齢者が安心して暮らすことのできるまち

70歳以上で満足度が下がっている。

●● 高齢者の年齢別満足度（満足度が「高い」を7、「低い」を1として、5～7の割合） ●●



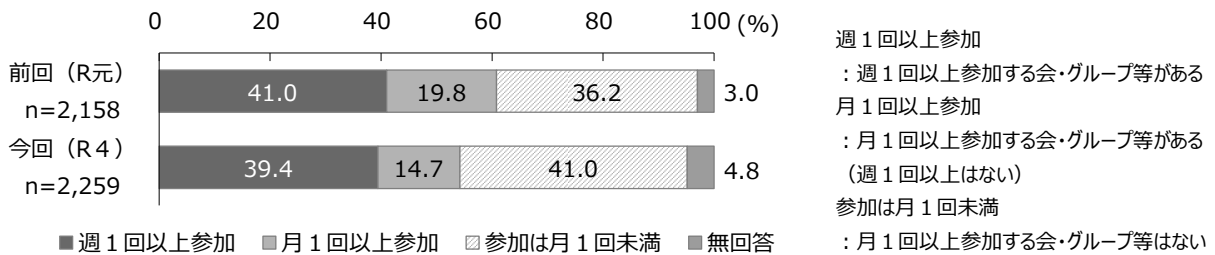
「第22回市民意識調査結果（令和元年度）」
「第23回市民意識調査結果（令和3年度）」（豊田市）を加工して作成

2. 成果指標の状況 重点施策①介護予防・健康づくりに通じる社会参加

成果指標①

指標	計画策定時	目指す方向	調査結果	
会・グループへ月1回以上参加している高齢者の割合	60.8% (2019年度)	▲	54.1%	▼

高齢者の「月1回以上参加している」がやや減少

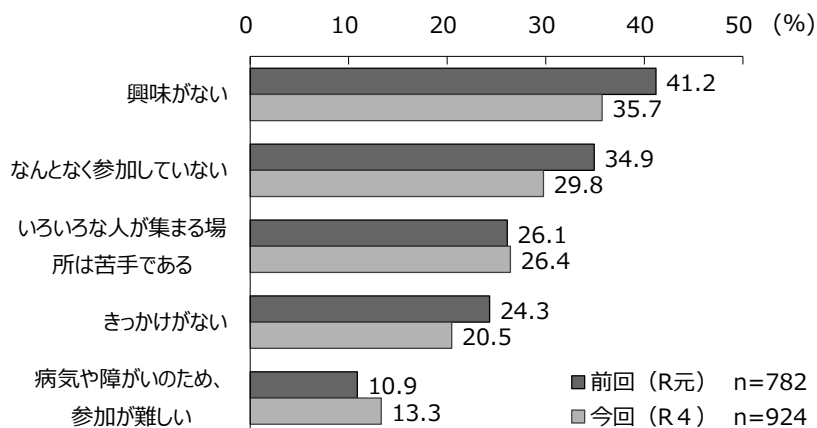


- ・多頻度（週に1回以上）に活動する高齢者の割合は、前回からあまり変化がないが、次に活動頻度が多い人（月に1回以上）が減り、その分が、全体の参加割合低下に影響している。
- ・コロナの影響が考えられるが、会・グループの活動に熱心な人はあまり影響を受けず、それよりも緩やかに活動している人の行動に大きく影響した可能性がある。

2. 成果指標の状況 重点施策①介護予防・健康づくりに通じる社会参加

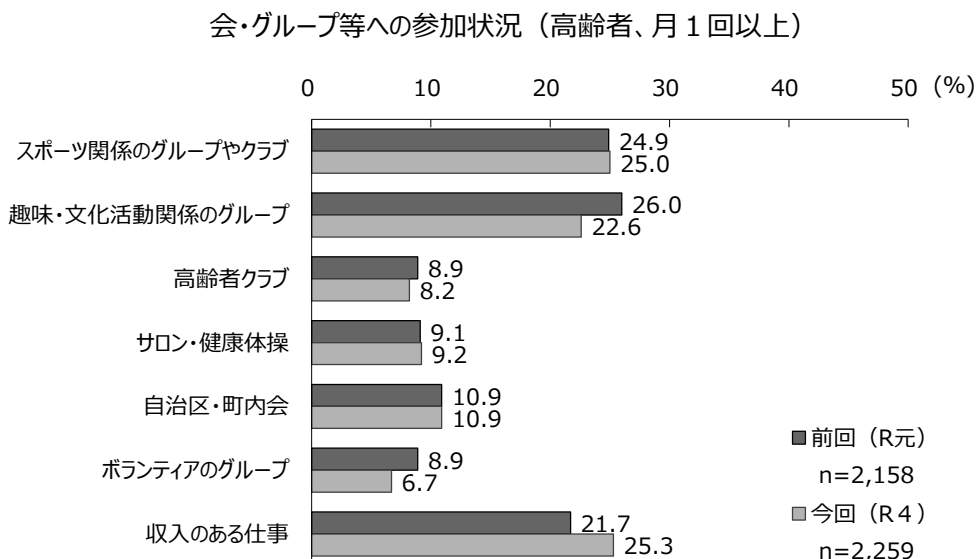
あまり参加していない人（月に1回未満の人）が、活動に参加しない理由の内、「興味がない」「なんとなく参加していない」「きっかけがない」は、前回から割合が低下している。しかし、「いろいろな人が集まる場所は苦手である」は、前回から割合がほぼ変わっていない。

会・グループ等に参加していない理由（高齢者、上位5項目） *複数回答あり



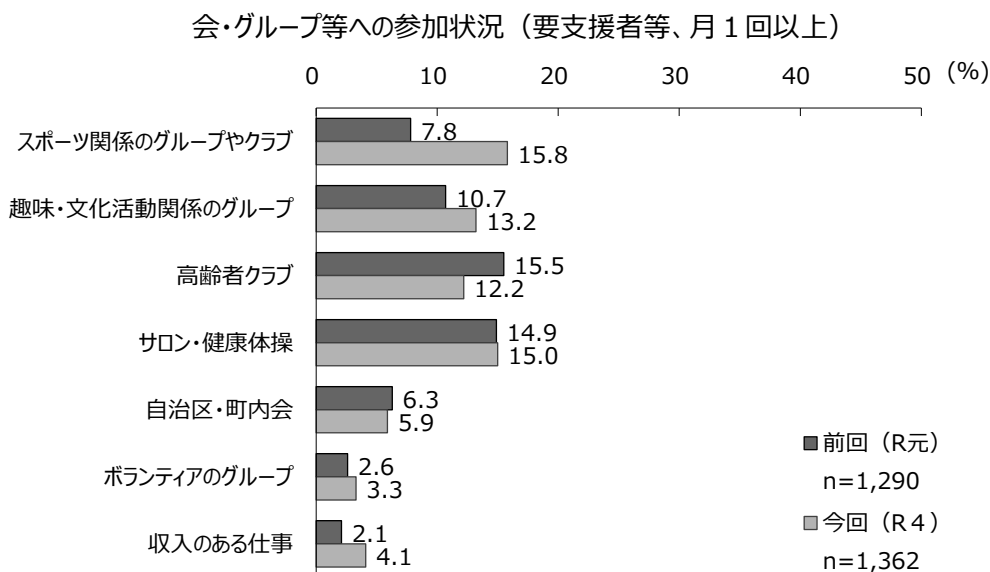
2. 成果指標の状況 重点施策①介護予防・健康づくりに通じる社会参加

高齢者では「収入のある仕事」の割合が増加、「趣味・文化活動関係」「ボランティアのグループ」は減少



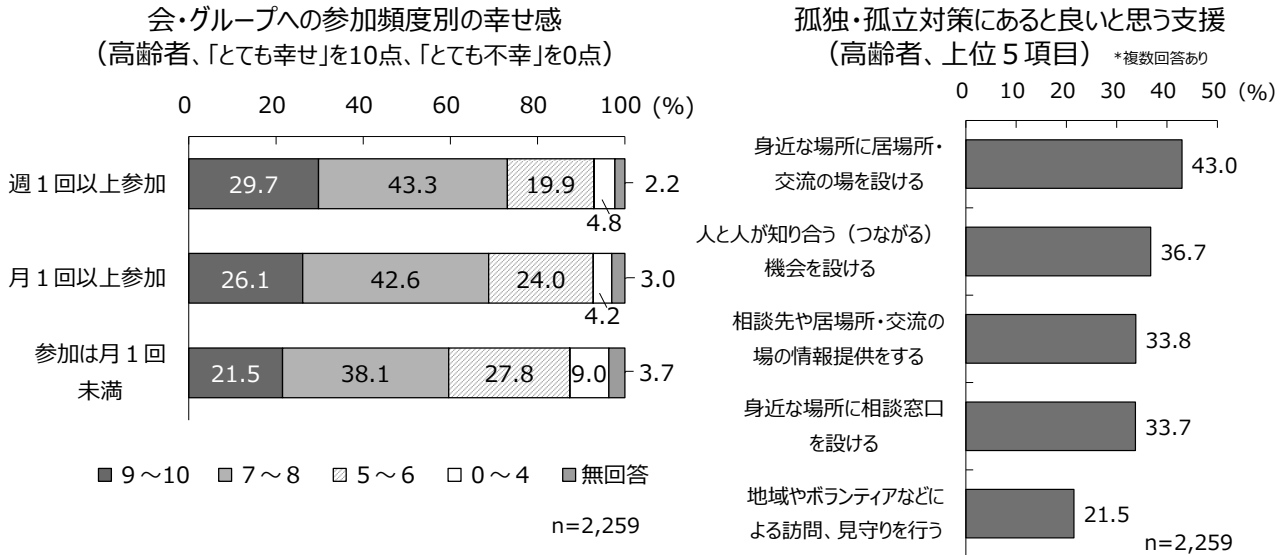
2. 成果指標の状況 重点施策①介護予防・健康づくりに通じる社会参加

要支援者等では「スポーツ関係のグループやクラブ」の割合が増加、「高齢者クラブ」は減少



2. 成果指標の状況 重点施策①介護予防・健康づくりに通じる社会参加

社会参加（会・グループへの参加）の頻度が高い人ほど、幸せ感が高い。
孤独・孤立対策としても、社会参加が求められている。

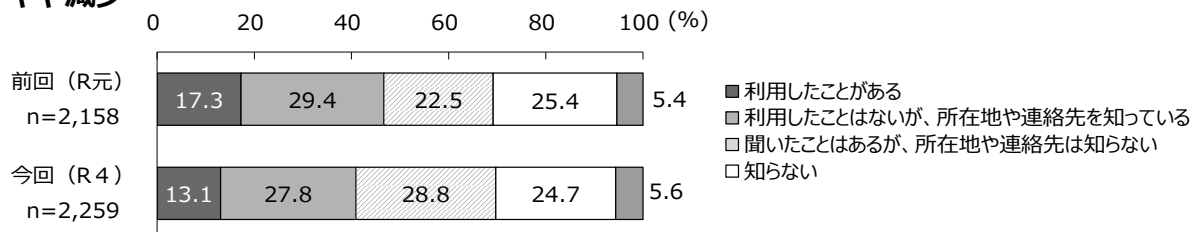


2. 成果指標の状況 重点施策②地域共生を支える体制整備

成果指標②

指標	計画策定時	目指す方向	調査結果	
高齢者の介護や福祉の総合相談窓口(地域包括支援センター)の認知度	46.7% (2019年度)	↗	40.9%	↘

「利用したことがある」、「利用したことはないが、所在地や連絡先を知っている」の割合がやや減少

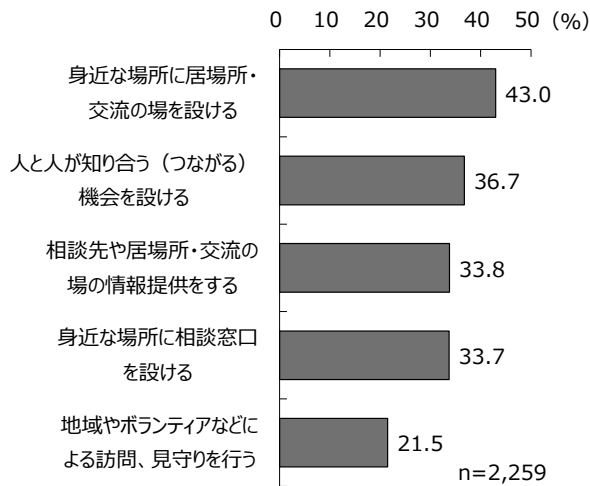


- ・新型コロナウイルスのまん延により、高齢者が集まる機会が著しく減少し、地域包括支援センターの周知を図る機会が失われたことが影響したと考えられる。
- ・一方で「聞いたことはあるが、所在地や連絡先は知らない」は増加し、「知らない」は減少しており、季刊誌の配布や回覧による周知など地道な取組が効果を挙げていることが伺われる。

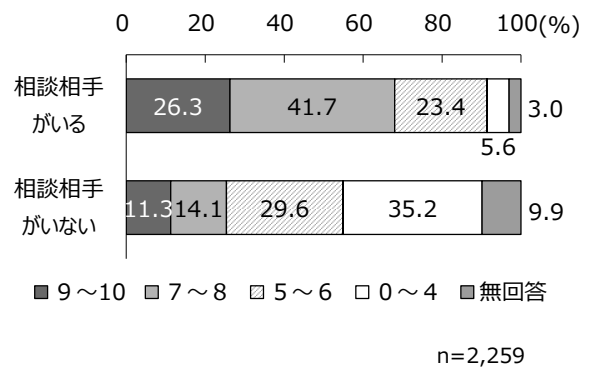
2. 成果指標の状況 重点施策②地域共生を支える体制整備

**孤独・孤立対策には、身近な場所に人につながる場や相談窓口を設けることが重要
相談相手がいる人は、相談相手がない人より幸せ感が高い。**

孤独・孤立対策にあると良いと思う支援
(高齢者、上位5項目) *複数回答あり



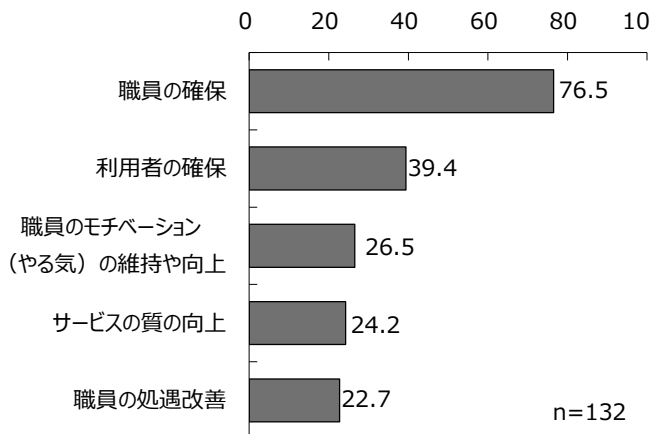
相談相手の有無と幸せ感
(高齢者、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点)



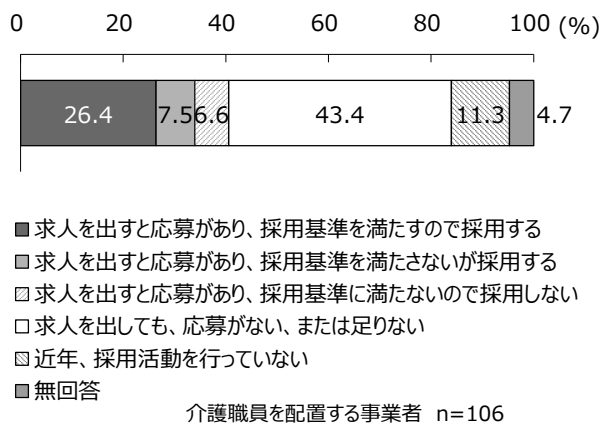
2. 成果指標の状況 重点施策②地域共生を支える体制整備

**介護サービス事業者の一番の課題は「職員の確保」
事業者の半数近くが、「求人を出しても、応募がない、または足りない」**

運営上の課題 (事業者、上位5項目) *複数回答あり



採用活動の結果 (事業者)

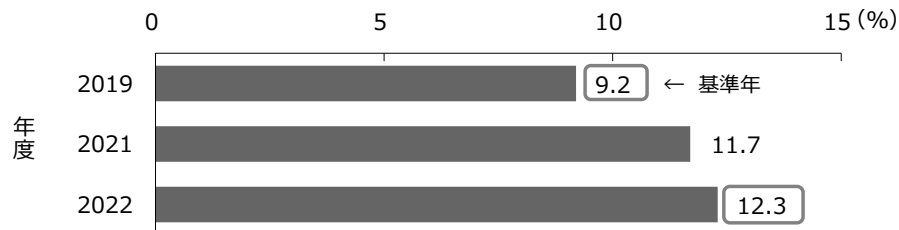


2. 成果指標の状況 重点施策③ 社会全体で取り組む認知症支援

成果指標③

指標	計画策定時	目指す方向	調査結果	
認知症を理解し、協力している市民の割合	9.2% (2019年度)	↗	12.3% (2022年12月)	↗

認知症を理解し、協力している市民の割合が増加している。



※認知症の理解とともに、協力している市民の割合は、全市人口に対する以下の事業の合計参加者数（登録者数）から算出している。

- ・徘徊高齢者等の早期発見の取組「かえるメールとよた」
- ・認知症の人や家族の応援者を増やす「認知症サポーター養成講座」
- ・チームオレンジ等の参画など認知症サポーターの活動支援「認知症サポーターステップアップ講座」

2. 成果指標の状況 重点施策③ 社会全体で取り組む認知症支援

成果指標③ 認知症を理解し、協力している市民の割合（内訳）

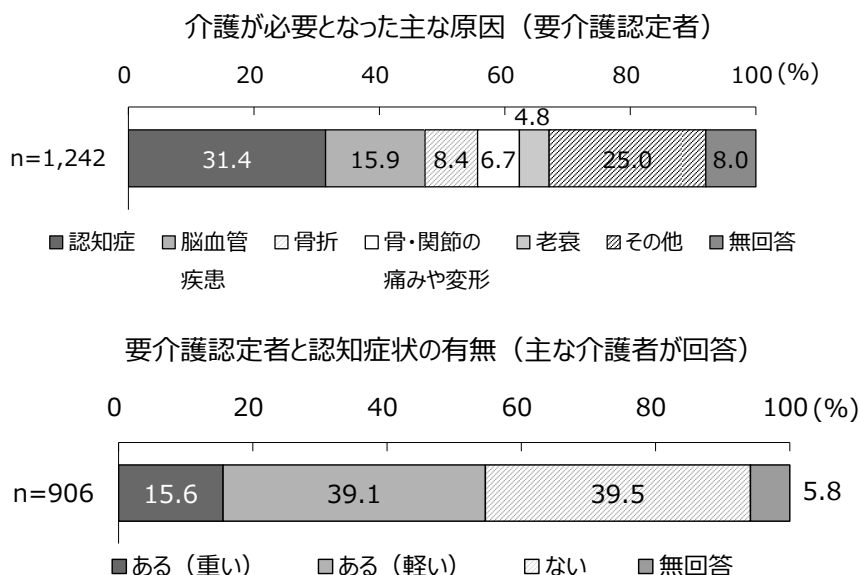
- ・事業内訳として「かえるメールとよた」「認知症サポーター養成講座」の登録者・受講者は顕著な増加がみられたものの、「認知症サポーターステップアップ講座」については、緩やかな増加傾向にある。
- ・コロナの流行により開催方法の見直しを図ったものの、集合開催が中心の「認知症サポーターステップアップ講座」については、コロナが大きく影響した可能性がある。

	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度 (2022年12月時点)
かえるメールとよた登録者	8,300	10,964	11,355
認知症サポーター養成講座受講者	30,310	35,955	37,695
認知症サポーターステップアップ講座受講者	1,814	2,048	2,162

単位：人（累計）

2. 成果指標の状況 重点施策③社会全体で取り組む認知症支援

介護が必要となった主な原因は、「認知症」が最も多い。
要介護認定者の過半数で何らかの認知症がある。



2. 成果指標の状況 重点施策③社会全体で取り組む認知症支援

重度の認知症がある人は、認知症状への対応、介護者の時間がないことが負担

特に大変な介護内容（要介護認定者の主な介護者が回答） *主な項目、複数回答あり

【認知症状の有無別】

	(%)	認知症状への対応	日中の排泄	服薬	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	自分（介護者）の時間がないこと
全体		27.0	18.5	31.0	27.9	24.8
認知症状がある（重い）		56.0	30.5	40.4	27.0	38.3
認知症状がある（軽い）		34.7	14.1	42.1	37.9	25.7
認知症状がない		11.7	20.9	19.6	22.6	22.3

n=906

2. 成果指標の状況 重点施策③社会全体で取り組む認知症支援

市民・専門職共通で、施設等への入所を考えるのは、認知症等による問題行動が多くなったときが上位

在宅での介護を断念し施設等へ入所する原因（主な項目） *要介護者は主な介護者が回答、複数回答あり

(%)	高齢者 n=2,259	要支援者等 n=1,362	要介護者 n=906	事業者 n=132	ケアマネ n=112
認知症等による問題行動が多くなったとき	62.8	40.3	53.3	77.3	81.3
排せつ（の介護）が難しくなったとき	47.5	41.0	49.1	47.7	48.2
複雑な医療の処置が必要になったとき	46.4	30.1	34.1	32.6	31.3
夜間の介護負担が大きくなったとき	37.8	22.7	38.4	51.5	66.1
食べること（の介護）が難しくなったとき	30.2	29.6	25.9	12.1	17.9

2. 成果指標の状況 重点施策③社会全体で取り組む認知症支援

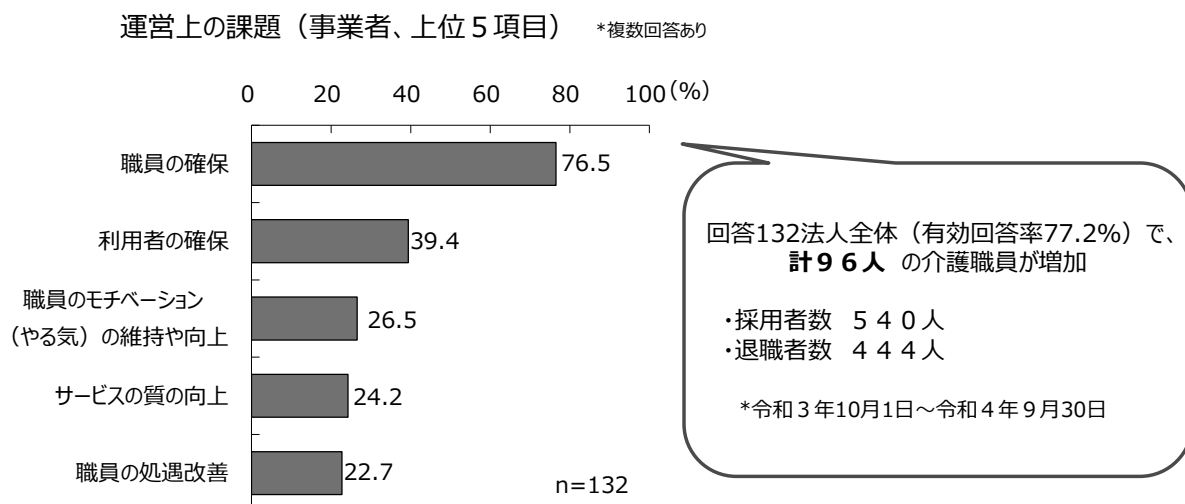
「家族相談」「早期発見」「住民の理解」が上位
事業者・ケアマネは「仕事やボランティア活動（社会参加）」も上位

認知症の人が安心して暮らしていくために取り組むべきこと（主な項目） *複数回答あり

(%)	高齢者 n=2,259	要支援者等 n=1,362	要介護者 n=1,242	事業者 n=132	ケアマネ n=112
認知症の人の家族が、いつでも相談できる機会をつくる	60.8	41.7	50.2	55.3	44.6
認知症の早期発見への機会（健康診断費用補助、早期発見アプリなど）をつくる	48.4	30.7	35.7	25.8	26.8
認知症について、住民の理解を深める	43.6	32.6	36.2	53.8	52.7
認知症の早期発見の重要性についてPRする	30.5	22.3	24.3	23.5	16.1
お店の人や公共サービスの職員が適切な対応ができるお店を増やす	16.2	12.2	15.1	15.9	28.6
認知症になっても仕事やボランティア活動ができる機会をつくる	12.6	8.1	10.2	40.9	46.4

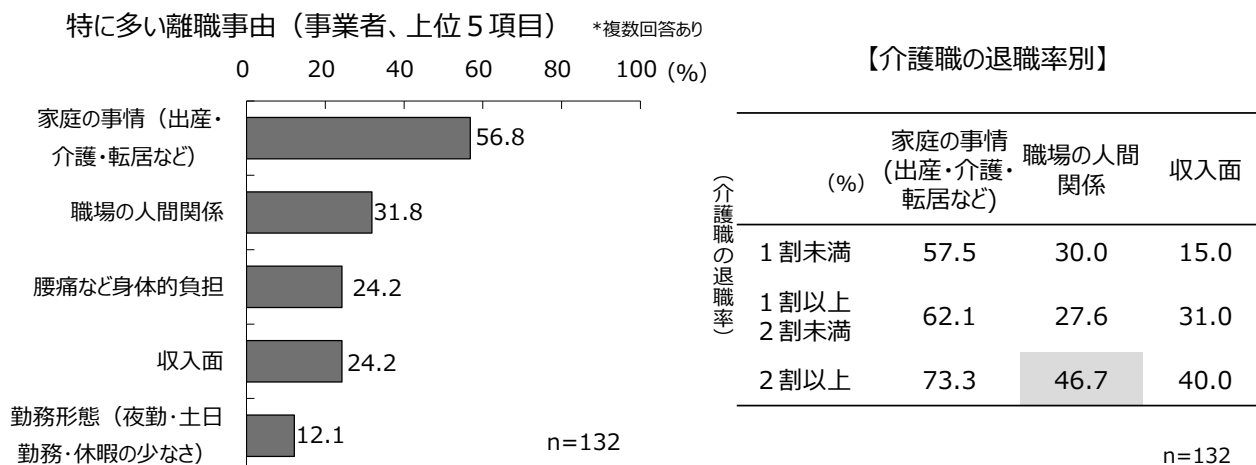
3. 介護人材等に関する調査結果 ①介護サービス事業者の課題

「職員の確保」と「利用者の確保」が課題



3. 介護人材等に関する調査結果 ②主な離職理由

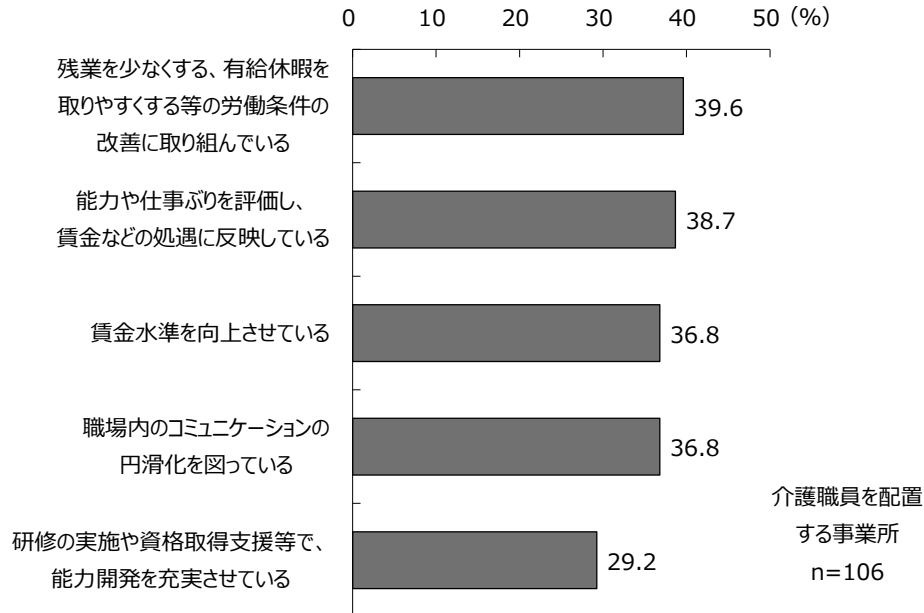
「職場の人間関係」「収入面」などが主な理由 離職率の高い事業者は、特に「職場の人間関係」が課題



3. 介護人材等に関する調査結果 ③職員の採用・育成・定着に向けて

「労働条件の改善」「処遇改善」「コミュニケーションの円滑化」などに取り組む。

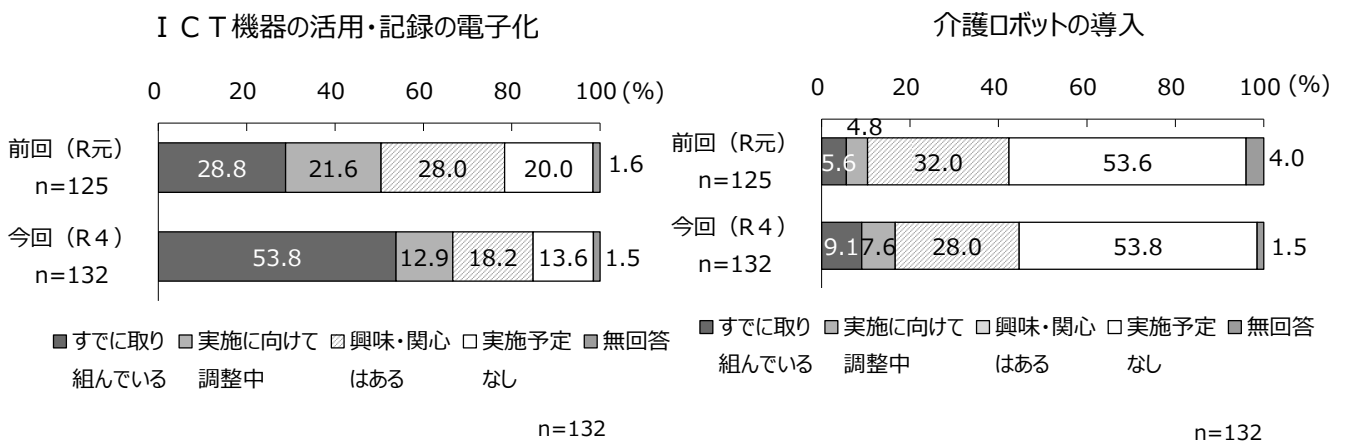
介護職員の採用、育成、定着のために力を入れている方策（事業者、上位5項目） *複数回答あり



3. 介護人材等に関する調査結果 ④職場改善の取組状況

職場改善の取組として、ICT機器の活用・記録の電子化が大きく進んだ。介護ロボットは「すでに取り組んでいる」「実施に向けて調整中」の割合が増加。

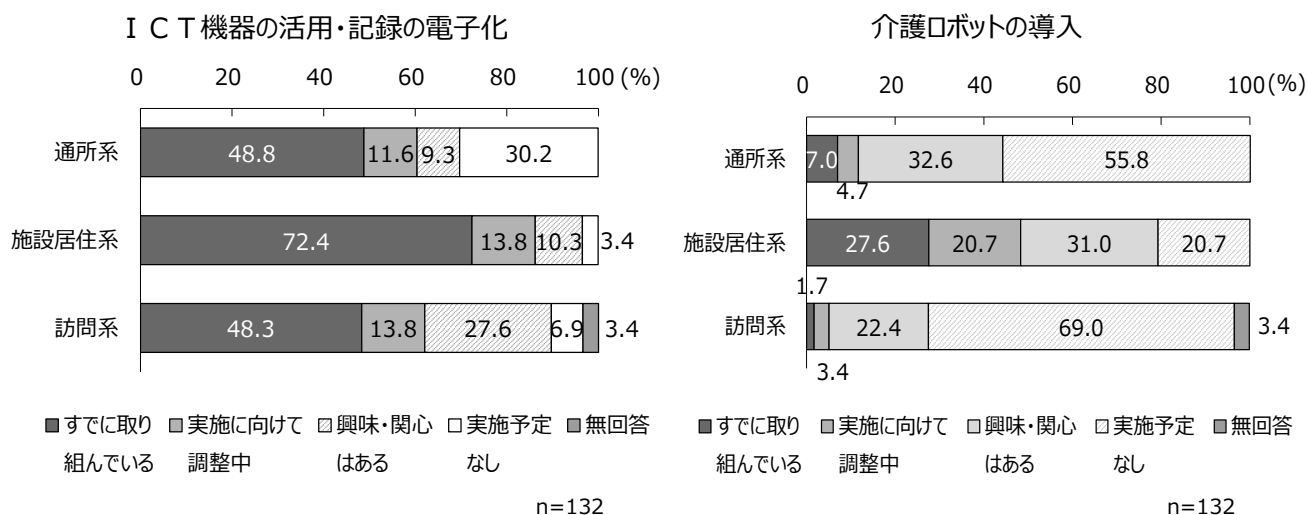
職場改善の取組状況（事業者）



3. 介護人材等に関する調査結果 ④職場改善の取組状況

事業タイプごとの取組状況として、施設居住系で特にICT機器と介護ロボットの活用割合が高い。

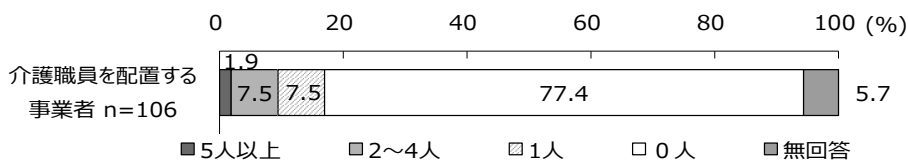
職場改善の取組状況（事業者）



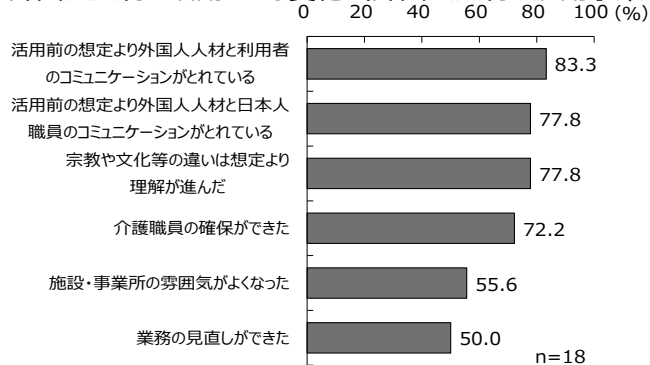
3. 介護人材等に関する調査結果 ⑤外国人人材の活用

市内の18の事業者で外国人人材を活用。外国人人材の活用をきっかけに職場の雰囲気改善、業務の見直しを図る事業者も

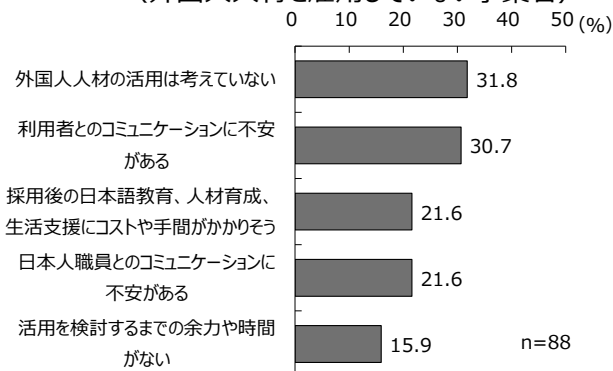
外国人人材の雇用状況（事業者）



外国人人材の活用による変化（外国人人材の雇用事業者）

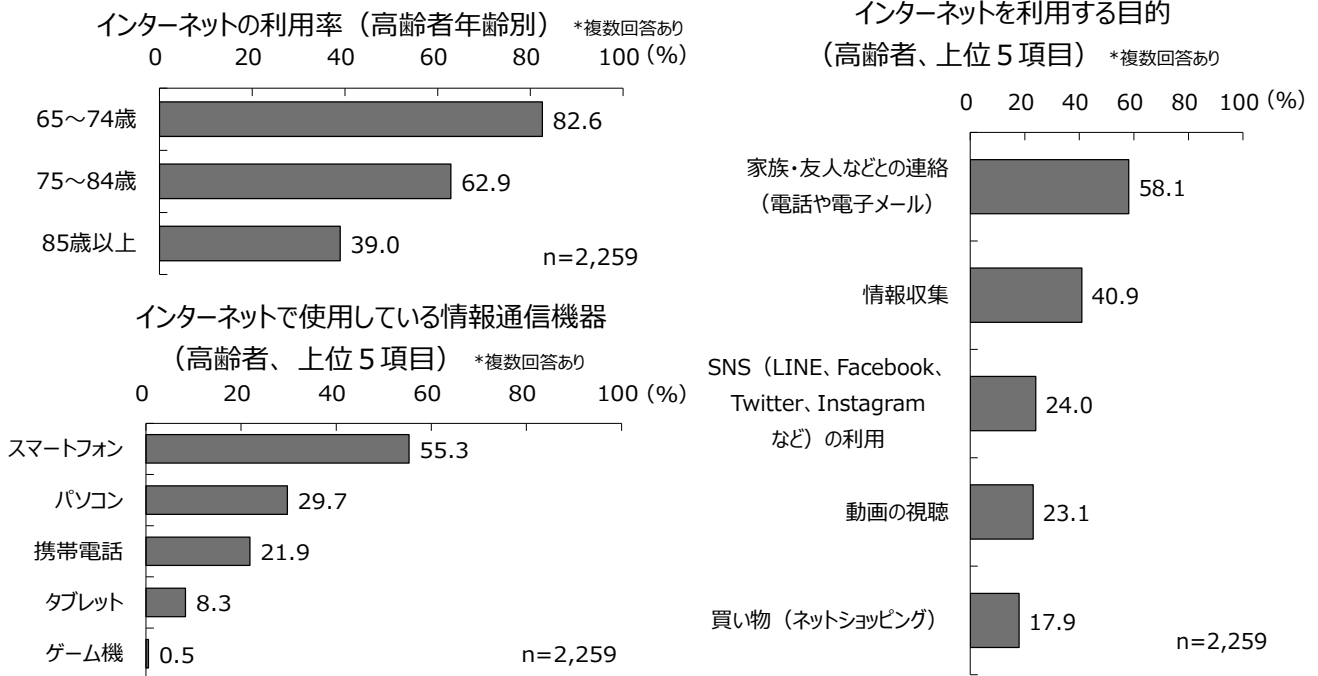


外国人人材の活用の不安（外国人人材を雇用していない事業者）



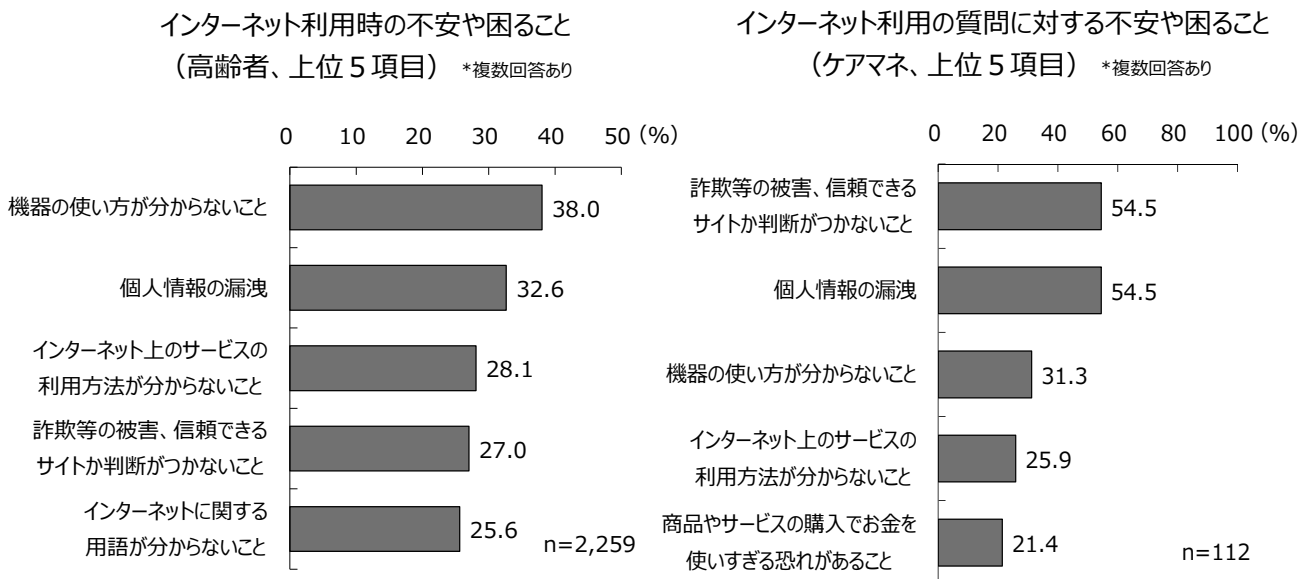
4. その他の調査結果 ① ICT インターネットの利用状況

スマホ、パソコンなどを通じて、インターネットを利用する高齢者は7割超
 家族・友人などとの連絡や情報収集に利用



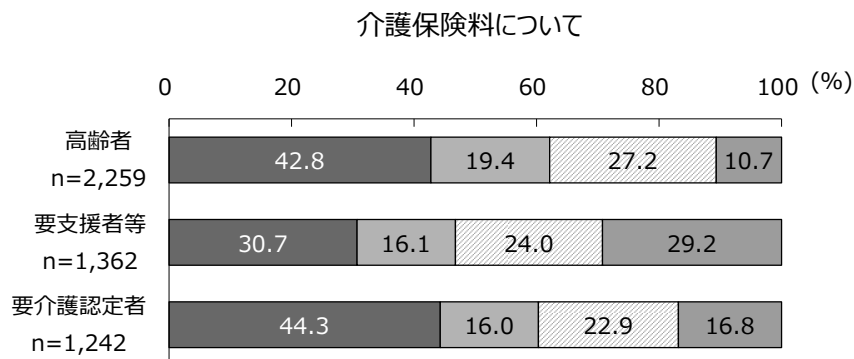
4. その他の調査結果 ① ICT インターネット利用の不安や困ること

機器の使い方、サービスの利用方法、詐欺や個人情報の漏洩防止が課題



4. その他の調査結果 ②介護保険料

現在のサービス水準を維持するために保険料負担の増加はやむをえないとの回答が多い。



- ① 高齢化が進んでサービス利用者が増えるので、現在のサービス水準を維持するためには保険料負担の増加はやむをえない
- ② ①に加え、保険料が高くなっても良いので、現在のサービス水準を上げるために施設やサービスを増やしてほしい
- ③ 施設やサービスを抑え現在のサービス水準を下げても、保険料は高くしないでほしい
- ④ 無回答

5. まとめ

・調査結果を前回と比較すると、結果が低下したものもあったが、前回（2019年度）は新型コロナウイルス発生前の調査であり、今回調査の結果には、新型コロナウイルスや社会経済状況の変化も影響したと思われる。

・第8期豊田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画において、重点的に取り組んできた「社会参加」「体制整備」「認知症支援」は、計画のめざす姿である「おもいやりのまち ～安心して自分らしく生きられる 支え合いのまちづくり～」につながる重要な要素であることが、今回調査の結果にも表れた。